

令和6年度 学校経営方針等

1 はじめに 【学校経営の基本理念】

- ・ 学校は子供達のためにある。「子供達のための学校」をいつも基本に据え、「すべては子供達のために」を判断基準として、学校経営をすすめていく。(子供ファースト)
- ・ 安全はすべての原点である。校内での生活はもちろん、登校から下校まで子供達の安全を保障する。(安心・安全な学校)
- ・ 授業で勝負が、学級経営の基本である。「協同的な学び」「個別最適な学び」が、知・徳・体のすべてが通じる。
- ・ 経営の主体は教職員一人一人である。特性や力を存分に発揮し結集すること。(チーム金ヶ崎小)
- ・ 地域あつての学校である。学校の主体性を保ちながらも、地域・保護者の願いにこたえる学校を教職員全員で創っていく。(保護者・地域とつながる・つなげる)

2 学校経営の基本

(1) 学校教育目標，めざす児童像

学校教育目標	めざす児童像
よく考える子	<ul style="list-style-type: none">・ 見通しをもち、自分から進んで学習する子・ 話をよく聞き、自分の思いや考えを進んで表現する子・ お互いの考えを聞き合い、工夫しながら学習する子・ 本に親しみ、資料を上手に活用できる子
心の豊かな子	<ul style="list-style-type: none">・ 自分自身を大切な存在であると思える子・ 場に応じた明るい挨拶ができる子・ 人を大切に思い、思いやりをもって助け合い、励まし合う子・ 学校のきまりや社会のルールを守って行動し、他の人の役に立つ子
健康で明るい子	<ul style="list-style-type: none">・ 夢（目標）に向かって粘り強く取り組む子・ 自分自身の健康に関心をもって健康づくりに努力する子・ めあてをもって運動に取り組み、体力づくりに進んで励む子・ 基本的な生活習慣を身に付け、安全に留意して活動する子

(2) めざす学校像

「子供達（金小で6年間勉強してよかった）、保護者（金小に入学させてよかった）、・教職員（金小で勤務してよかった）が実感できる学校を目指して、下記の視点から具現化していく。

- ・ **明るく楽しい学校** (あいさつ、歌声、認め合う心)
- ・ 活気のある学校 (行動力、追究・追求力)
- ・ **規律ある学校** (自立、節度、豊かな心)
- ・ 共に学び合う学校 (学ぶ意欲、達成感・成就感、豊かな人間関係)
- ・ 信頼される学校 (児童・父母・地域とともに)

(3) めざす教師像

「どの子にも 確かな力をつけさせる教職員」をめざし、下記の視点から具現化していく。

- ・ 子供とともに活動し、**真心をもって誠実に指導**する教職員
- ・ 子供が自己実現を図れるよう、指導・支援を徹底する教職員
- ・ 常に向上心を持って研修に励み、日々、**工夫と改善を図る**教職員
- ・ 地域や家庭とともに歩み、信頼と期待に応えることができる教職員

3 学校経営の方針

- (1) 学校経営の基本理念のもと、児童・教員との信頼関係を築き、心身共に健康で人間性豊かな児童の育成に努める。
- (2) 学校教育目標や目指す学校像、子供像・教職員像が、日々の実践で具現化するために、「チーム金小」として教職員の積極的な経営参画に努め、CAPDサイクルによる学校経営を充実させる。
- (3) 全児童を対象とする特別支援教育の校内体制の整備と、教育的なニーズに応じた指導や支援を充実させる。
- (4) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、子供につけたい力と、その獲得のための道筋を明らかにした内容豊かな実践に努める。
- (5) 安全で安らぎのある教育環境の整備や充実、ICT活用に努め、児童の学習意欲、学習効率を高める。
- (6) 郷土を愛し、誇りに思う心を育てるとともに、震災からの復興・発展のために、自らの役割と責任を果たそうとする意識を育てるように努める。
- (7) 学校・家庭・地域との連携を図るため、学校運営協議会をベースに、開かれた学校経営に努める。
- (8) 業務の精選・重点化による効率化を図り、働き方を推進する。

4 学校経営の重点と視点

- (1) 学年・学級経営の充実

ア **学年・学級のまとまりを強め、目標に向かって努力を続ける学年・学級集団作り**

イ 個々を認め合い、所属感を育てる学級作り

ウ 学級での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、**合意形成を図り、実践できる学級作り（特別活動をとおして）**

- ・ **学級活動の充実を図り、学級の課題解決、係活動を通じた学級文化の向上を推進する。**
- ・ 「金小スタンダード」「学びのスタンダード」を活用した学びの土台づくりを推進する。
(学校生活の基礎基本、学習習慣の徹底と活用能力の育成)
- ・ 子供達の学校での居場所につながるよう、**個々を認め合える学年・学級集団作り**を進める。

- (2) 豊かな人間性を育む心の教育の充実

ア **基本的生活習慣の定着・・・あいさつ、ろうか歩行 等**

イ 学校行事や児童会活動を通じた責任ある行動と積極性の育成
(児童会活動の自主的な活動への転換)

ウ いじめ問題への継続的な対応

エ **互いの良さを認め、尊重し合う心情の育成**

オ 体験活動や感動体験を通じた豊かな心の育成

- ・ **登校から下校までの学校生活習慣の再確認と定着を図るため、最初の3日（年度・学期・月等）を大切に、指導と振り返りを繰り返す。**
- ・ 行事を通してめざす子供の姿を明確にもち、そのためにどうするか具体的な手立てをとりながら実施する。
- ・ 児童会活動の時間の確保、**点検活動からの脱却**
- ・ 総合的な学習の時間（Q&R）のカリキュラムを児童の実態に合わせながら計画を立て、直接的な体験活動の重視と、**ICTだけに頼らない探究活動**を進めていく。

(3) 特別支援教育の充実

- ア 一人一人の実態把握、**発達段階に応じた適切な支援や指導**の充実
- イ 特別支援教育に関する理解と研修
- ウ 支援が必要な児童に対する校内支援体制の確立
- エ 子ども達の相互理解を深める**交流及び共同学習の推進**
- オ **関係機関との連携**した相談支援の充実

- ・特別支援教育コーディネーターを中心に、担任・保護者との連携を図りながら、保護者との信頼関係をもとに適切な就学支援を実施し、通級指導・特別支援教育の理解と適切な学習環境の必要性を伝えていく。
- ・**指導形態の工夫による個別の支援の充実を図る。**
- ・児童一人一人に応じた学習環境の充実を図る。(少人数による「個に応じた学習」、交流学級における学習 等)

(4) 確かな学力の定着をめざす学習指導の充実

- ア **授業改善の視点を「個別最適化な学び」「協働的な学び」に置き**、子供達の主体的・対話的で深い学びの実現を目指す
- イ **外国語・外国語活動を中心に言語活動の充実を図り、知識を相互に関連付けて考える力の育成**
- ウ あらゆる場面（授業・家庭学習・朝活動等）での**ICT活用**を進め、**「個別最適化な学び」「協働的な学び」の学習の推進**
- エ 諸調査を活用した授業改善と基礎基本の定着
- オ 基本的な学習規律の定着と、授業と連動した家庭学習の推進
- カ 読書活動の積極的な推進

- ・**単元の見通しをもたせ、子供達と単元での学びを共有する中で、学習の個性化（指導の個別化）の場面、協働的な場面を明確にして授業スタイルを確立する。**
- ・校内研究（外国語・外国語活動）で、単元のゴールを明確（児童の姿）にし、言語活動の充実を図る。
- ・各教科でのICT活用（タブレット）を実践交流し、授業実践を行うと共に、**オンラインで家庭や他校等へ配信することで、学習活動の広げ、深める。**
- ・情報モラル学習、タブレットの使い方のルールを定着させ、授業でのタブレット活用を進める。
- ・町立図書館を定期的に利用し、読書の幅を広げると共に、図書で調べる活動を取り入れる。
- ・読書タイムを活用し、読み聞かせや本の紹介、新聞の読み取り等を取り入れ、読書力、読解力が向上するよう進める。

(5) 健康でたくましい体の育成と安全教育の充実

- ア 体力・運動能力の向上
- イ 意欲をもって取り組む体育的行事や日々の活動の充実
- ウ 保健・安全指導の充実による心身の健康の保持増進
- エ 校舎内外の安全対策の推進
- オ 自分の命を自分で守り切るという安全意識の啓発
- カ 学校保健委員会の活動の充実と、家庭との連携による実践活動の展開

- ・学習の目標を明確にした体育授業の充実
- ・行事と連動した体力づくりの推進（運動会 マラソン大会 町陸上記録会）
- ・**業間マラソンへの意欲付けと積極的な取り組みの推進**
- ・避難訓練・交通安全教室・防犯教室の実施、登校班での登校の指導、引き渡し訓練の実施
- ・危機管理マニュアルの見直し、有事の際の対処法の確立（**熊対応**）

- (6) 復興教育の推進
- ア 総合的な学習の時間（Q&R）、社会科の地域学習等による「ふるさと学習」の確実な実施
 - イ 「いきる」「かかわる」「そなえる」の価値をふまえた教科、特別の教科 道徳、各領域等との関連を図った復興教育の推進
 - ウ 復興教育を位置づけた教育課程の確実な実施
- (7) 職員研修の充実
- ア 研究授業の積み重ねによる校内研修の充実と授業力の向上
 - イ 指導力向上のための各種研修会・研究会への計画的な参加
- (8) PTA・地域住民、関係機関との連携強化
- ア 家庭・地域との連携・協働による教育の推進
 - イ 学校運営協議員等による教育関係者評価や外部評価等を生かした学校教育の推進
 - ウ 不登校、いじめ等での関係機関との連携を強化し、未然防止、早期発見、再発防止等へ役立つ
- (9) 業務の精選・重点化・効率化を進め、働き方改革の推進
- ア 会議、保護者への文書等のペーパーレス化を推進し、業務の効率化を図る
 - イ 行事の目的、内容、取り組み方の再検討や時程の検討を行い、教材研究の時間確保
 - ウ 職員会議、の提案等の見直しによる会議時間の短縮を図る
 - エ 時間外労働の限度として原則月45時間、年360時間をめやすに業務改善を進める